

万博学

万国博覧会という、世界を把握する方法
Expo-logy: Expos as a Method of Grasping the World



刊行記念 シンポジウム 開催決定!

30人のメンバーが
10年をかけて構想した、
広大な学際研究としての
「万博学」を、
いま、京都から発信します。

2日にわたり、
執筆陣が『万博学——万国博覧会
という、世界を把握する方法』の
成果を一挙に披露！
両日とも自由討論セッションを設けます。
2025年大阪・関西万博への展望も語り
あいましょつ。

日時：第1日 2020年12月12日(土) 10:30~18:30
第2日 2020年12月13日(日) 10:00~17:30

会場：京都大学 百周年時計台記念館 2階 国際交流ホール
(京都市左京区吉田本町 京都大学本部構内正門正面)

交通アクセス：京阪出町柳駅から徒歩20分／市バス201・206系統他 京大正門前下車 徒歩3分／
京都駅(JR、近鉄)から京大正門前へは市バス206系統にご乗車下さい(約35分)。

定員：会場70名／オンライン参加70名 いずれも参加無料、
事前申込み制(先着順)

- 新型コロナウイルス感染状況により、開催方法を変更する場合には、お申し込みいただいた方々へお知らせいたします。
- オンラインでの参加を申し込まれた方には、後日、ログイン方法をご連絡いたします。

◎ 日英中同時通訳付き

会場参加、オンライン参加の場合ともに、同時通訳の利用には、スマートフォンへの専用アプリのダウンロード(無料)とイヤホンのご準備が必要になります。

お申込み方法：9月中旬以降、以下のウェブサイト上の申込みフォームにてお申し込みください。

(シンポジウムの詳細も、同サイトで順次ご紹介してまいります。)

○『万博学』シンポジウム事務局 <http://cp.educ.kyoto-u.ac.jp/expo-logy.html>

○ 思文閣出版 <https://www.shibunkaku.co.jp/publishing/>

お問い合わせ：『万博学』シンポジウム事務局 e-mail: expo-logy@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp



主催：「万国博覧会と人間の歴史」研究会

共催：科学研究費補助プロジェクト(基盤研究C)「国際博覧会条約(1928年)及び博覧会国際事務局(1931年)の成立に関する研究」(代表・佐野真由子)
科学研究費補助プロジェクト(若手研究)「『日本のもの』の伝播と深化」(代表・鶴飼敦子)

助成：(公財)村田学術振興財団(研究会助成)

協力：株式会社乃村工藝社、華中師範大学中国近代史研究所、株式会社思文閣出版

佐野真由子 編

万博学

万国博覧会
という、世界を
把握する方法

定価：本体 8,500円(税別) B5判・556頁 ISBN978-4-7842-1992-6

2020年
8月刊行

目次

序説・万国博覧会という、世界を把握する方法	佐野真由子(京都大学大学院教育学研究科教授)
万国博覧会と「ピアノ」の誕生	井上さつき(愛知県立芸術大学音楽学部教授)
新興産業としての七宝業と博覧会——技芸と技術と近代工芸	武藤夕佳里(並河靖之七宝記念館主任学芸員)
勸農開物翁の幕末・明治——田中芳男と博覧会・博物館	沓名貴彦(国立科学博物館理工学研究部研究主幹)
万国博覧会とオスマン帝国人の世界観	ジラルデッリ青木美由紀(イスタンブール工科大学建築学部建築学科准教授補)
渋沢栄一と万国博覧会——パリ万博(1867年)からパナマ太平洋万博(1915年)まで	関根仁(渋沢史料館学芸員)
● BIEの設立と万博の20世紀	
国際博覧会の歴史に博覧会国際事務局(BIE)が果たした役割	岩田泰((公財)2025年日本国際博覧会協会企画局長)
フランスと1928年国際博覧会条約	寺本敬子(跡見学園女子大学文学部人文学科准教授)
紀元2600年記念日本万博の計画とその周辺——1930年代の国際博覧会日本展示をめぐる連続性	増山一成(中央区総括文化財調査指導員学芸員)
戦時宣伝と写真壁画——山端祥玉と1939年ニューヨーク万国博覧会の《躍進日本》を中心に	白山眞理((一財)日本カメラ財団調査研究部長)
万博日本館にみる「展示デザイン」の変遷	構成・執筆：執行昭彦((株)乃村工藝社 文化環境事業クリエイティブアドバイザー)、森誠一朗(同社 展示プランナー)、岸田匡平(同前)
ポストコロナル時代のアイデンティティ・ポリティクスと万国博覧会におけるフィリピン館 1958-1992	エドソン・G・カバルフィン(テュレーン大学建築学部教授)
コラム モントリオールの困惑——1967年博の日本館展示問題	市川文彦(フランス国立社会科学高等研究院Senior Fellow)
● 特集 1970年大阪万博	
コラム 大阪万博への飛翔	清水章(元(株)乃村工藝社開発本部情報センター担当部長)
1970年大阪万博の基本理念——「万国博を考える会」による草案作成の背景と経緯	五月女賢司(吹田市立博物館学芸員)
昭和天皇と万国博覧会	牧原出(東京大学先端科学技術研究センター教授)
リニアと原爆——大阪万博日本館における科学技術展示の生成	有賀暢迪(国立科学博物館理工学研究部研究員)
大阪万博における企業パビリオンのブループリント	飯田豊(立命館大学産業社会学部准教授)
1970年日本万国博覧会における仏教的造形物の役割	君島彩子(国際日本文化研究センター博士研究員)
1970年キリスト教界における戦後主体性論争——大阪万博キリスト教館と万博反対運動	増田斎(総合研究大学院大学博士後期課程在籍)
建築家と万国博覧会——EXPO'70の黒川紀章から考える	井上章一(国際日本文化研究センター所長)
1970年日本万国博覧会の先進性と評価をめぐる——産業技術史の視点から	橋爪紳也(大阪府立大学21世紀科学研究機構特別教授)
● 世界を映し続ける万博	
【堺屋太一オーラル・ヒストリー】万博に戦後史を読む——沖縄海洋博(1975年)を中心に	聞き手：牧原出、佐野真由子
沖縄国際海洋博覧会と沖縄観光	神田孝治(立命館大学文学部教授)
展示装飾業からディスプレイ業へ——大阪万博前後からの展開	石川敦子((株)乃村工藝社130周年事業推進室)
万国博覧会に関する来場経験者の長期記憶——モントリオール、大阪、バンクーバー、ブリスベン、愛知の万博を題材に	清水寛之(神戸学院大学心理学部教授)、デイヴィッド・アンダーソン(ブリティッシュコロンビア大学教育学部教授)
コラム 上海万博の「セルヴィス・ルソー」——グローバル・アート・ヒストリーへの階段	鶴飼敦子(東京大学東洋文化研究所特任研究員)
物語作りとデザイン——ミラノ万博	ウィーベ・カウテルト(ソウル国立大学環境大学院教授)
博覧会の「ゆきさき」を考える——博覧会をつくる現場から	澤田裕二(UG WORK 合同会社代表)
万博における中国要素(プレゼンス)	江原規由(元 一般財団法人国際貿易投資研究所(ITI)研究主幹)
万国博覧会の遺産としての博物館——夢の後始末をめぐる	中牧弘允(国立民族学博物館名誉教授)
近代博から現代博への運営システム転換 1851~2017——褒賞制・売却制・展示法に映った「世界」	市川文彦